

道徳の時間学習指導案

神石高原町立豊松小学校
指導者 指導教諭 松葉 伸恵

- 1 日時 平成27年5月26日(火) 5校時(13:50~14:35)
- 2 学年 神石高原町立豊松小学校 第4学年 12名
- 3 主題名 信頼のきずな 2-(3) 信頼・友情 【関連項目 1-(3) 勇気 2-(2) 親切】
- 4 資料名 「絵はがきと切手」 (文溪堂)
- 5 ねらい 正子からの絵はがきが料金不足だったことを知らせるかどうか迷い、知らせることを決心するひろ子の気持ちを考えることを通して、友だちと互いに信頼し、助け合い、忠告し合って友情を深めていこうとする心情を育てる。

6 主題設定の理由

- 学習指導要領中学年の指導内容2-(3)は、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」とある。
中学年は、友だちの気持ちや立場を理解できるようになる時期であり、児童にとって、友だちの存在はとても大きい。一緒に遊んだり、励まし合ったり、助け合ったりしながらその関係を深めていく。しかし、それだけでは、本当の友だち、友情とは言えない。この時期の児童の友情は、仲良しから発展したもので、互いの悪い点を忠告するなど、互いに高め合おうとする関係には至らないことがある。
本当の友情とは、長所を認め合い、短所を指摘されれば直そうと努力できることである。信頼関係が土台にあれば、友だちの忠告を受け入れ、互いに人間性を高めていくことができる。
そこで、友だちのことを互いに信頼・理解し、助け合ったり、友だちのためを思って忠告したりすることで、真の仲間集団を育成することが大切であると考え、本主題を設定した。
- 本学級の児童は、

〈略〉
- この資料は、ひろ子が、転校してしまった仲良しの友だちの正子から絵はがきをもらう。しかし、それは、定形外郵便物で、70円の料金不足だった。兄は、「友だちなら教えてあげた方がいいよ。」と言い、母は、「お礼だけ言っておいた方がいいよ。」と言う。ひろ子は、どうすべきか悩むが、教えてあげることを決心するという内容である。
友だちとして、相手のことを考えるならどうすべきか、本当の友だちとはどういうものかを考えることができる資料である。
- 指導に当たって、導入では、友だちとはどういうものか、今の児童の価値観を出させ、本時で扱う道徳的価値について関心をもたせる。
展開前段では、児童に、自分だったら、料金不足のことを「教える」か「教えない」のどちらがいいと思うかネームプレートを使って意思表示をさせて意見を交流する。友だちの意見と比較したり、出た意見を基にして自分の考えを吟味したりすることで、どちらが本当に正子のためになるのかを考えさせていく。この時、友だちの意見を聞いて、自分の考えが変わったという意見や、友だちの考え方も理解できるという意見を取り上げ、友だち同士の学び合いを大切にしたい。また、ひろ子が、「正子さんは、きっと分かってくれる。」と料金不足を教えることを決めたのは、何でも言い合える信頼関係があることに気付かせていく。

そして、展開後段では、本当の友だちとはどういうものかを出させ、これまで感じていた表面的な仲の良さだけでなく、注意し合ったり、違う意見を言ったりすることのできる関係であることに気付かせ、導入で、児童が捉えた友だちと比較し、価値観の変容を自覚させることで、本時のねらいに迫っていきたい。

7 準備物 場面絵、ワークシート、私たちの道徳

8 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問と児童の心の動き	○指導上の留意点 (★評価の観点)
導入	○自分にとって友だちとはどんな人か考える。	○みんなにとって、友だちとはどんな人のことですか。 ・一緒に遊ぶ、話をする。 ・困ったとき助けてくれる。・勉強を教えてくれる。	○友だちについての今の価値観を出させることで道徳的価値への関心をもたせる。
展	○資料の前半を読む。 ①正子から絵はがきをもらったときのひろ子の気持ちを考える。	○正子さんから、きれいな絵はがきをもらったひろ子は、どんな気持だったでしょう。 ・なんてきれいな所。ぜひ行ってみたい。 ・正子さん、私のことを忘れずにいてくれた。 ・正子さんに会いたいなあ。	○絵葉書もらったひろ子の喜びに共感させ、正子とひろ子が離れても仲良しの友だちであることをおさえる。
	②料金不足のことを知らせるべきか知らせていくか考える。	◎母と兄の意見を聞いて、ひろ子は何を考えたでしょう。 『お礼だけ言う』 ・せっかく送ってくれたのに、嫌なことを言うと嫌われる。 ・70円ぐらい払ってあげればいい。 ・正子さんが、嫌な思いをする。 『料金不足を教えるべき』 ・正子は、まちがっているから教えてあげるべき。 ・他の人にも料金不足で送るかもしれない。 ・料金不足のことを後で知ったら、教えてほしいと思うだろう。  ・教えて、正子が嫌な思いをしないように、同じことをしてはいけないと心配していることを伝えればいい。 ・正子は、知らないのだから、教えてもらったらきっと喜ぶと思う。 ・友だちのまちがいに知らん顔をしているのは、よくない。友だちのために教える方がいい。	○自分だったらどうするべきだと思うか、ネームプレートで表し、そう思う理由を交流する。 ○それぞれの意見に対して揺さぶりをかけながら、友だちとして、正子のためにはどうすることが一番いいかを考えさせる。 ★友だちとして、相手のことを大切にされた行動を考えることができる。

開	○資料の後半を読む。 ③「正子さんは、きっと分かってくれる。」と思ったのはなぜか考える。	○「正子さんは、きっと分かってくれる。」と思ったのは、なぜでしょう。 ・二人は、仲良しだから、私の思いを分かってくれと思ったから。 ・正子さんが、このことを怒る人ではないと信じているから。 ・二人は、信じ合っている自信があるから。	★信頼し合っていれば、何でも言えることに気付くことができる。
	④本当の友だちについて考える。	○本当の友だちとは、どんな人のことですか。 ・いいこともいけないことも、言い合える人。 ・よくないことを教えてあげられる人。 ・自分のいけないことを教えてもらったなら、直そうとする人。	○導入で考えた友だちとはどんな人かと比べさせることで、考えの深まりや考え方の変容を自覚させる。
	⑤自分の生活を振り返る。	○ひろ子や正子と同じようにお互いのことを思って、まちがいを教えたり、教えてもらったことがあるか。 ・委員会の仕事を忘れていたとき、友だちが、声をかけてくれて助かった。もう忘れないようにしようと思った。 ・集合に遅れた友だちに「遅れてすみません」と言うように教えてあげた。	○言いにくいことでも相手のために言うことや、友だちの注意を素直に聞くのが、本当の友だちであることに気付かせる。
終末	○「私たちの道徳」P74を読み、本当の友だちについて考えたことを書く。	○「私たちの道徳」P74の「友情って何だろう」を読み、本当の友だちについて考えたことを書きましょう。	

9 板書計画

